



日本政策投資銀行

2018年8月

新潟支店

新潟におけるインバウンド推進に向けて -(桜、紅葉、雪)×(歴史)×(和食)が誘客増のカギ-

1. 調査概要

- 当行では、2012年度より毎年インターネットによるアンケート調査「アジア8地域・訪日外国人旅行者の意向調査」を行ってきた（調査対象：韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシアの8地域）。2016年度より、欧米豪（調査対象：イギリス、フランス、アメリカ、オーストラリア）の4地域を加えた計12地域の海外旅行経験者を対象としている。2017年度も6月から7月にかけて（公財）日本交通公社と共同で調査を実施した。
- 本件調査は、新潟地域を訪れたことがある訪日外国人旅行者の日本旅行に対する意向について整理を行っている。インバウンド観光が将来の成長産業として期待されている中、本件調査が新潟地域への誘客策を考える上での一助となれば幸いである。

2. 今回調査のポイント

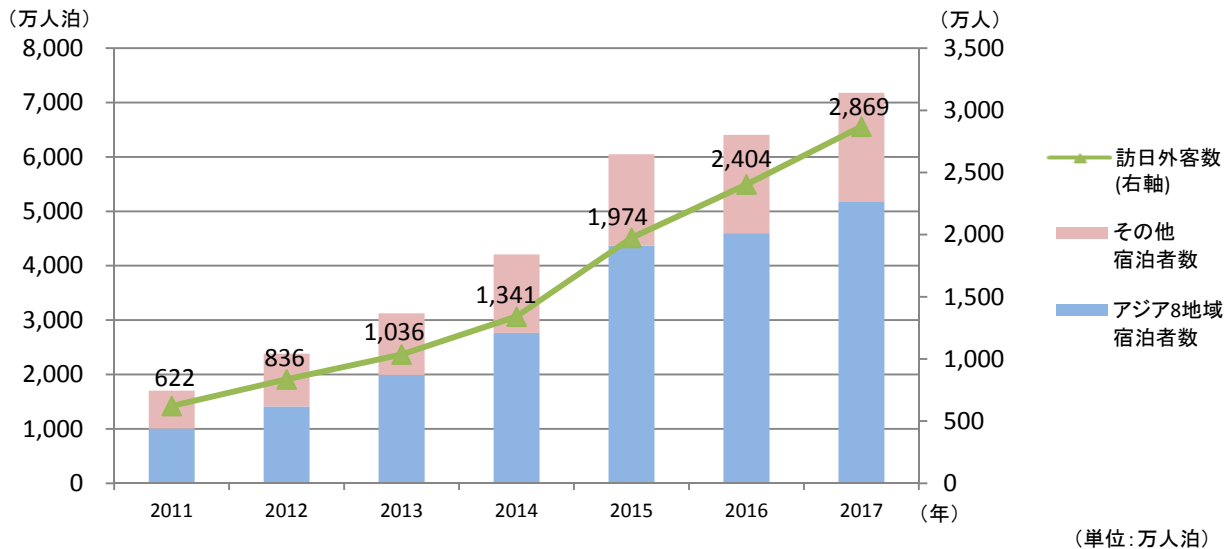
- 調査概要は以下の通り。
 - ①新潟県の2017年の外国人延べ宿泊者数は、中国、台湾からの宿泊者数が増加した結果、全体では203千人泊と、2007年の調査開始以降過去最高を記録した。
一方で、オーストラリアをはじめとする欧米豪からの宿泊者数は減少しており、冬場中心の構造が続く中で、宿泊者数の伸び率は全国平均の半分程度にとどまる結果となった。また、本県は外国人延べ宿泊者数で全国34位に位置しており、旅館やリゾートホテルの客室稼働率も3割～4割程度と依然として低位にある。
 - ②アンケート調査によると、新潟、佐渡を訪れる外国人観光客の約8割は訪日リピーター客であり、ともにパック旅行が多い傾向にある。
新潟訪問希望者は訪日旅行において、桜、紅葉、雪などの自然資源や史跡・歴史的建築物鑑賞のほか、食体験に強い関心を抱いており、地域別では、アジアの旅行者は「自然」、欧米豪の旅行者は「食体験」により興味を持っている傾向がある。
一方で、新潟、佐渡訪問希望者は訪日旅行について、飛行機、宿泊予約などのアクセスに制約を感じ、言語対応や決済手段、病院といったインフラ面を不安視する傾向が強い。
 - ③新潟、佐渡の認知度は、国内の主要な観光地に比べると依然として高いとは言えない。
本県におけるインバウンド推進にあたっては、訪日希望者が魅力と感じる「自然資源」「史跡・歴史的建築物」「日本料理」といったコンテンツを総合的に体験できる観光戦略を描き、東京からのアクセスの良さや地方国際空港を有する利点とあわせて発信することにより外国人観光客の認知度を高めていく必要がある。
また、国際便の路線・価格帯の多様化による利便性向上を図るとともに、ICTを活用した多言語対応、決済手段の拡充など、引き続き訪日客受入のインフラ整備を進めていくことが重要になるだろう。

全国におけるインバウンドの現状

-訪日外国人旅行者は各国で軒並み増加し、2017年は過去最高-

- 全国の訪日外国人旅行者数は、2013年に1,000万人の大台に乗り、2016年には2,869万人と過去最高を記録。また外国人延べ宿泊者数は、2017年で前年比12.1%増の7,180万人泊となっている。
- 2017年の外国人延べ宿泊者数を国・地域別にみると、中国の宿泊者数が1,732万人泊（対前年比2.7%増）と前年に続き最も多くなったほか、韓国の宿泊者数が対前年比41.2%と大幅に増加した。東南アジアの国々からの宿泊数も着実に増加している一方で、対訪日外国人旅客比率は減少している。

図表1 訪日外客数と外国人延べ宿泊者数の推移



	2011年		2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		増減率
	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	
アジア8地域	1,004	59.0%	1,410	59.2%	1,991	63.7%	2,765	65.7%	4,368	72.2%	4,597	71.8%	5,184	72.2%	12.8%
韓国	255	15.0%	289	12.1%	378	12.1%	434	10.3%	674	11.1%	774	12.1%	1,093	15.2%	41.2%
中国	272	16.0%	404	17.0%	415	13.3%	780	18.5%	1,629	26.9%	1,687	26.3%	1,732	24.1%	2.7%
台湾	242	14.2%	380	15.9%	618	19.8%	794	18.9%	1,049	17.3%	1,053	16.4%	1,124	15.7%	6.7%
香港	130	7.6%	162	6.8%	255	8.2%	318	7.6%	481	7.9%	521	8.1%	619	8.6%	18.8%
タイ	40	2.4%	81	3.4%	143	4.6%	200	4.8%	240	4.0%	239	3.7%	254	3.5%	5.9%
シンガポール	45	2.6%	62	2.6%	88	2.8%	111	2.6%	138	2.3%	152	2.4%	168	2.3%	11.0%
マレーシア	21	1.2%	33	1.4%	51	1.6%	74	1.8%	84	1.4%	93	1.5%	96	1.3%	3.0%
インドネシア	-	-	-	-	43	1.4%	55	1.3%	73	1.2%	78	1.2%	99	1.4%	25.7%
その他	698	41.0%	972	40.8%	1,134	36.3%	1,443	34.3%	1,683	27.8%	1,809	28.2%	1,996	27.8%	10.3%
アメリカ	190	11.2%	248	10.4%	289	9.3%	319	7.6%	380	6.3%	429	6.7%	479	6.7%	11.6%
オーストラリア	49	2.9%	67	2.8%	89	2.8%	117	2.8%	147	2.4%	160	2.5%	180	2.5%	12.9%
イギリス	36	2.1%	49	2.1%	58	1.9%	72	1.7%	91	1.5%	96	1.5%	108	1.5%	13.3%
フランス	26	1.5%	41	1.7%	55	1.8%	67	1.6%	77	1.3%	82	1.3%	91	1.3%	11.6%
合計	1,702		2,382		3,124		4,207		6,051		6,407		7,180		12.1%
対訪日外国人客数比率	273.6%		285.0%		301.5%		313.7%		306.5%		266.5%		250.3%		

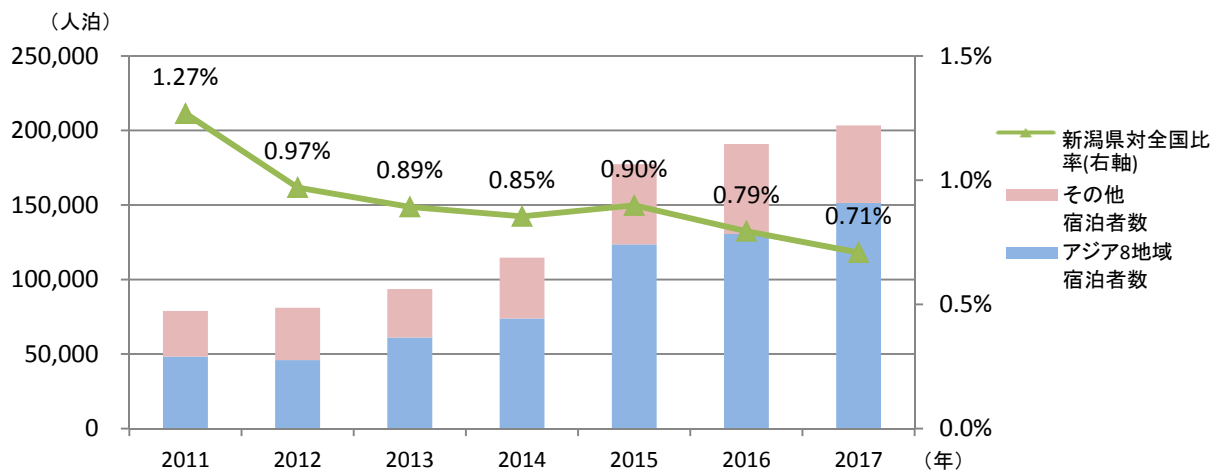
(注1)国籍(出身地)不詳をその他に含む。
 (注2)アジア8地域とは韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア(2010年1月以降)、インドネシア(2013年1月以降)をいう。
 (注3)従業者数10人以上の施設が調査対象
 (注4)2017年宿泊者数は速報値、訪日外客数は暫定値
 (出所)国土交通省「宿泊旅行統計調査」、日本政府観光局(JNTO)「国・地域別 / 目的別 訪日外客数」を基に日本政策投資銀行作成

新潟県におけるインバウンドの現状（１）

-調査開始以降最高の宿泊者数を記録する一方、対全国比率では低下-

- 新潟県における2017年の外国人延べ宿泊者数は、20万人の水準を突破したものの、増加率は全国（対前年比12.1%増）の半分程度（同6.5%増）にとどまり、対全国比率においては再び低下傾向を示している。
- 国・地域別に見ると、台湾が対前年比41.6%増と大幅な増加を示す一方で、東南アジアおよび欧米諸国においては前年対比で減少した地域が多く見られた。

図表２ 新潟県の外国人延べ宿泊者数および新潟県対全国比率の推移



（単位：人泊）

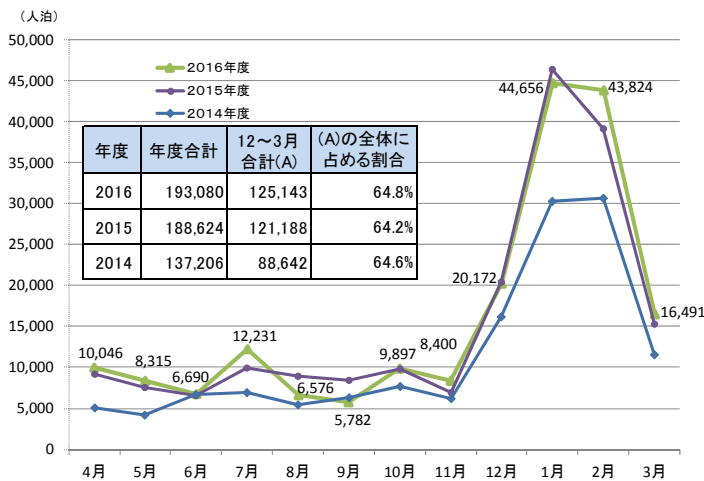
	2011年		2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		増減率
	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	宿泊者数	構成比	
アジア8地域	48,340	61.3%	45,950	56.7%	61,090	65.3%	73,870	64.5%	123,610	69.7%	130,550	68.4%	151,430	74.5%	16.0%
韓国	15,320	19.4%	12,300	15.2%	14,640	15.6%	11,710	10.2%	17,720	10.0%	18,790	9.8%	19,470	9.6%	3.6%
中国	9,940	12.6%	12,420	15.3%	14,110	15.1%	18,460	16.1%	38,240	21.6%	33,910	17.8%	37,130	18.3%	9.5%
台湾	15,900	20.2%	12,930	15.9%	19,530	20.9%	27,220	23.8%	36,830	20.8%	44,100	23.1%	62,440	30.7%	41.6%
香港	4,540	5.8%	3,520	4.3%	6,700	7.2%	7,090	6.2%	13,460	7.6%	15,970	8.4%	15,520	7.6%	-2.8%
タイ	1,080	1.4%	2,440	3.0%	1,950	2.1%	3,420	3.0%	6,170	3.5%	7,200	3.8%	6,350	3.1%	-11.8%
シンガポール	880	1.1%	1,280	1.6%	1,790	1.9%	3,170	2.8%	5,180	2.9%	5,380	2.8%	6,110	3.0%	13.6%
マレーシア	680	0.9%	1,060	1.3%	1,340	1.4%	1,420	1.2%	2,960	1.7%	3,010	1.6%	2,450	1.2%	-18.6%
インドネシア	-	-	-	-	1,030	1.1%	1,380	1.2%	3,050	1.7%	2,190	1.1%	1,960	1.0%	-10.5%
その他	30,530	38.7%	35,150	43.3%	32,500	34.7%	40,740	35.5%	53,710	30.3%	60,400	31.6%	51,940	25.5%	-14.0%
アメリカ	6,310	8.0%	8,200	10.1%	8,220	8.8%	8,550	7.5%	11,310	6.4%	10,620	5.6%	10,030	4.9%	-5.6%
オーストラリア	4,550	5.8%	2,620	3.2%	2,770	3.0%	3,090	2.7%	8,340	4.7%	12,040	6.3%	8,760	4.3%	-27.2%
イギリス	3,440	4.4%	3,310	4.1%	1,990	2.1%	3,300	2.9%	3,430	1.9%	3,210	1.7%	2,750	1.4%	-14.3%
フランス	660	0.8%	730	0.9%	1,010	1.1%	900	0.8%	1,270	0.7%	1,330	0.7%	890	0.4%	-33.1%
合計	78,870		81,100		93,590		114,610		177,320		190,950		203,370		6.5%
対訪日外国人客数比率	1.27%		0.97%		0.90%		0.85%		0.90%		0.79%		0.71%		
対全国の外国人宿泊者数比率	0.46%		0.34%		0.30%		0.27%		0.29%		0.30%		0.28%		

(注1)国籍(出身地)不詳をその他に含む。
 (注2)アジア8地域とは韓国、中国、台湾、香港、シンガポール、タイ、マレーシア(2010年1月以降)、インドネシア(2013年1月以降)をいう。
 (注3)従業者数10人以上の施設が調査対象
 (注4)2017年宿泊者数は速報値
 (注5)対全国比率(対訪日外国人客数比率)=新潟県外国人延べ宿泊者数÷訪日外客数(2017年は暫定値)
 (注6)対全国の外国人宿泊者数比率=新潟県外国人延べ宿泊者数÷全国外国人延べ宿泊者数
 (出所)国土交通省「宿泊旅行統計調査」、日本政府観光局(JNTO)「国・地域別/目的別訪日外客数」を基に日本政策投資銀行作成

新潟県におけるインバウンドの現状（２） -引き続き冬場中心の傾向、魚沼地域の増加が顕著-

- 新潟県の2016年度外国人延べ宿泊者数を月別にみると、通年での宿泊者数は増加傾向にあるものの、引き続き冬場スキーシーズンの12月～3月の全体に占める割合が高く64.8%（2014年度64.6%、2015年64.2%）となっている（参考1参照）。
- 2015～2016年度にかけては、魚沼地域では中国・台湾の宿泊者数が増加した一方、前年度の北陸新幹線開通で急激に増加していた上越地域および冬場におけるオーストラリアの宿泊者数、新潟～ハルビン線減便を受けた下越地域の中国宿泊者数の減少が目立った。

図表3 2014年度～2016年度新潟県の月別外国人延べ宿泊者数



図表4 2016年度新潟県の外国人延べ宿泊者数

	合計	
	宿泊者数	構成比
アジア8地域	125,847	65.2%
韓国	13,982	7.2%
中国	29,594	15.3%
台湾	46,990	24.3%
香港	17,929	9.3%
タイ	6,191	3.2%
シンガポール	6,516	3.4%
マレーシア	2,306	1.2%
インドネシア	2,339	1.2%
その他	67,233	34.8%
アメリカ	9,009	4.7%
オーストラリア	27,278	14.1%
イギリス	3,375	1.7%
フランス	889	0.5%
合計	193,080	100.0%
構成比	100.0%	
前年度比		

図表5 新潟県の季節別・地域別外国人延べ宿泊者数増減（2015年度～2016年度）

	四半期別				地域別					合計	
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	下越	中越	上越	魚沼	佐渡	宿泊者数	構成比(ポイント)
アジア8地域	+513	-3,607	+1,245	+10,633	-4,280	+428	+720	+11,173	+743	+8,784	3.1%
韓国	+678	-243	+289	-749	+188	-184	-317	+363	-75	-25	-0.2%
中国	-819	-3,047	+75	+2,234	-7,093	+915	+230	+4,524	-133	-1,557	-1.2%
台湾	+226	-374	+2,263	+5,746	+2,126	+1	+178	+4,023	+1,533	+7,861	3.6%
香港	+566	+59	-1,055	+2,675	-242	+58	+323	+1,950	+156	+2,245	1.0%
タイ	+636	+80	-132	-196	+278	-43	-71	+233	-9	+388	0.1%
シンガポール	+59	+42	-225	+375	+281	-199	+430	-408	+147	+251	0.1%
マレーシア	-274	+30	-94	+167	-56	+76	-98	-146	+53	-171	-0.1%
インドネシア	-559	-154	+124	+381	+238	-196	+45	+634	-929	-208	-0.1%
その他	+1,158	+906	+98	-6,490	+1,127	+656	-3,280	-2,480	-351	-4,328	-3.1%
アメリカ	+550	+535	+234	-269	+1,039	+24	-134	+330	-209	+1,050	0.4%
オーストラリア	-122	+211	-906	-4,190	+75	-52	-3,827	-1,160	-43	-5,007	-3.0%
イギリス	116	-437	-36	128	-83	18	128	-265	-27	-229	-0.2%
フランス	-59	-6	22	-260	-102	66	-21	-165	-81	-303	-0.2%
合計	+1,671	-2,701	+1,343	+4,143	-3,153	+1,084	-2,560	+8,693	+392	+4,456	0.0%
構成比(ポイント)	0.6%	-1.7%	0.2%	0.9%	-2.3%	0.4%	-1.8%	3.6%	0.1%	0.0%	0.0%

(注1)国土交通省の「宿泊旅行統計調査」は調査対象期間が暦年であり、かつホテル・旅館・簡易宿泊所を対象とした調査。本調査の対象期間は年度であり、国際観光ホテル整備法登録ホテル等を対象とした抽出調査となっており、対象期間及び対象件数に違いあり。

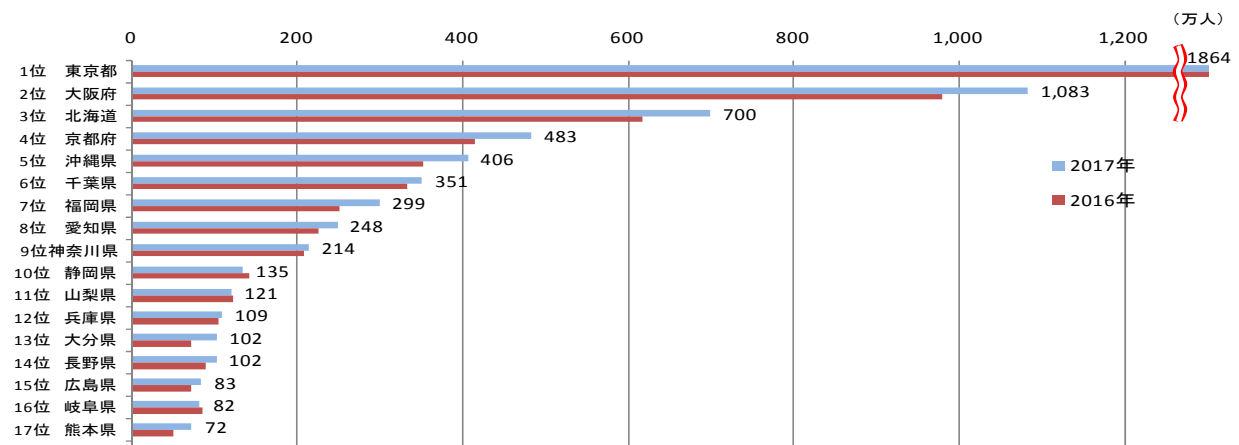
(注2)地区区分は巻末の[注]を参照

(出所)新潟県産業労働観光部観光局観光振興課の資料を基に日本政策投資銀行作成

都道府県別外国人延べ宿泊者数の状況 -2017年の増加率は、全国平均を下回る水準-

- 都道府県別にみると、新潟県の外国人宿泊者数は、2017年において全国34位に位置しており、対前年増加率は6.5%と全国平均を大きく下回っている。
- なお、新潟県内の宿泊施設の客室稼働率は、全国的にみると44位と低位な状況にあり（参考2参照）、外国人宿泊者の積極的な取り込みが稼働率改善の一つの方策となるものとも思われる。

図表6 都道府県別外国人延べ宿泊者数



図表7 都道府県別外国人延べ宿泊者数伸び率・寄与度

寄与度 順位	都道府県名	2015年	2016年	2017年		
		宿泊者数(人)	宿泊者数(人)	宿泊者数(人)	伸び率	寄与度
	全 国	60,509,240	64,066,730	71,804,750	12.1%	—
1位	東京都	16,076,970	16,457,420	18,644,560	13.3%	3.4%
2位	大阪府	8,653,660	9,800,040	10,834,950	10.6%	1.6%
3位	北海道	5,413,800	6,165,450	6,996,870	13.5%	1.3%
4位	京都府	4,092,200	4,149,930	4,828,650	16.4%	1.1%
5位	沖縄県	3,440,620	3,524,440	4,063,160	15.3%	0.8%
6位	千葉県	3,458,400	3,326,710	3,511,370	5.6%	0.3%
7位	福岡県	2,225,180	2,506,790	2,992,230	19.4%	0.8%
8位	愛知県	2,214,350	2,259,730	2,481,560	9.8%	0.3%
9位	神奈川県	2,088,100	2,081,890	2,142,260	2.9%	0.1%
10位	静岡県	1,630,100	1,414,890	1,345,510	-4.9%	-0.1%
18位	石川県	433,530	584,910	633,570	8.3%	0.1%
30位	富山県	192,200	198,210	242,700	22.4%	0.1%
34位	新潟県	177,320	190,950	203,370	6.5%	0.0%

(注1)順位は2017年順、2017年宿泊者数は速報値
 (注2)従業者数10人以上が対象
 (出所)国土交通省「宿泊旅行統計調査」

「アジア8地域及び欧米豪における 訪日外国人旅行者の意向調査」 -全国及び主要都市と新潟・佐渡の訪問経験者及び訪問希望者の比較-

調査概要

1. 調査方法

インターネットによる調査

2. 調査時期

2017年6月29日～2017年7月12日

3. 調査地域

韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、アメリカ、オーストラリア、イギリス、フランスの12地域

(注：中国は北京及び上海在住者のみ)

(注：アメリカ、オーストラリア、イギリス、フランスの4地域は前回調査より調査対象として追加)

4. 調査対象者

20～59歳の男女、かつ、海外旅行経験者

(注：中国-香港-マカオ間、マレーシア-シンガポール間、タイ-マレーシア間、アメリカ-カナダ・メキシコ・ハワイ・グアム間、オーストラリア-ニュージーランド間、イギリス・フランス-欧州各国間の旅行については、海外旅行経験から除く)

5. 有効回答者数

上記各地域に居住する住民計6,274人

(注：中国は北京及び上海在住者のみ。割合は北京50%：上海50%)

(注：n=29以下は参考値として記載)

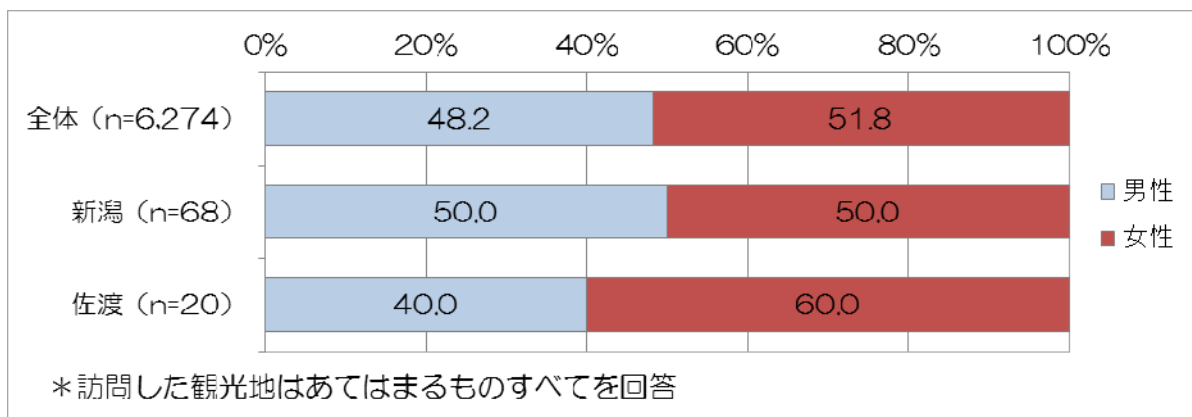
6. 協力実査会社

楽天リサーチ株式会社

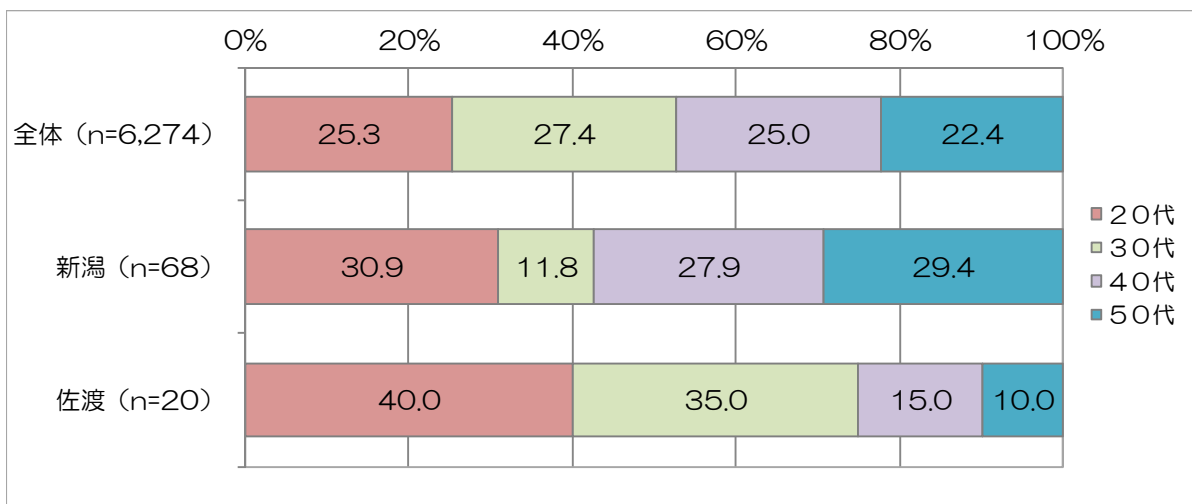
属性①

- 日本を訪れたことがあると回答した訪日経験者のうち、新潟訪問経験者は68人、佐渡訪問経験者は20人で、どちらにおいても男女比は半々程度である。
- 年代は、新潟訪問経験者は全体に比べて20代と50代の比率が高い一方で、佐渡訪問経験者は20～30代の比較的若い世代が全体の7割超を占めている。

図表8 (訪問地別) 性別割合



図表9 (訪問地別) 年代割合



属性②

-新潟、佐渡ともにパッキング参加を愛好する傾向-

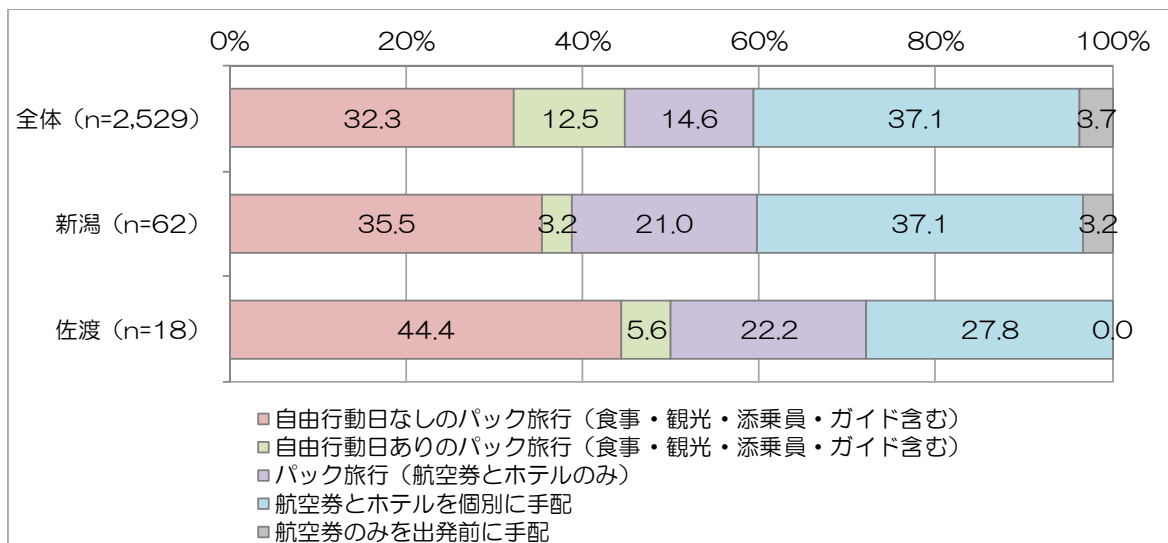
- 国別にみると、新潟訪問経験者は中国、台湾、香港で5割以上を占めるほか、全体に比してタイの割合も高い。佐渡訪問経験者はアジア系の訪問客が多い。
- 旅行形態は、新潟訪問経験者、佐渡訪問経験者ともにパッキングへの参加の割合が高い傾向にある。

図表10 (訪問地別) 国別割合 (単位：n・%)

		中国	台湾	香港	韓国	タイ	インドネシア	マレーシア	シンガポール	イギリス	アメリカ	フランス	オーストラリア
全体		6,274 100.0	533 8.5	504 8.0	519 8.3	521 8.3	515 8.2	524 8.4	519 8.3	514 8.2	539 8.6	526 8.4	534 8.5
訪問地	新潟	68 100.0	17 25.0	9 13.2	9 13.2	5 7.4	11 16.2	2 2.9	2 2.9	3 4.4	4 5.9	4 5.9	2 2.9
	佐渡	20 100.0	4 20.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	3 15.0	3 15.0	1 5.0	2 10.0	3 15.0	1 5.0	0 0.0
	東京	1,664 100.0	230 13.8	248 14.9	299 18.0	138 8.3	175 10.5	102 6.1	71 4.3	152 9.1	43 2.6	61 3.7	56 3.4
	東北	68 100.0	6 8.8	22 32.4	13 19.1	7 10.3	5 7.4	0 0.0	0 0.0	3 4.4	2 2.9	9 13.2	1 1.5
	北陸	56 100.0	8 14.3	23 41.1	8 14.3	5 8.9	2 3.6	1 1.8	1 1.8	2 3.6	2 3.6	3 5.4	0 0.0
	京都	1,056 100.0	141 13.4	184 17.4	201 19.0	104 9.8	99 9.4	69 6.5	43 4.1	81 7.7	15 1.4	30 2.8	35 3.3
	大阪	1,126 100.0	115 10.2	189 16.8	254 22.6	139 12.3	107 9.5	69 6.1	55 4.9	79 7.0	16 1.4	28 2.5	21 1.9
	四国	86 100.0	18 20.9	22 25.6	16 18.6	0 0.0	8 9.3	4 4.7	2 2.3	6 7.0	6 7.0	1 1.2	2 2.3
	九州	316 100.0	36 11.4	71 22.5	87 27.5	52 16.5	23 7.3	7 2.2	9 2.8	15 4.7	1 0.3	8 2.5	4 1.3
	沖縄	312 100.0	31 9.9	98 31.4	73 23.4	36 11.5	18 5.8	16 5.1	7 2.2	11 3.5	4 1.3	14 4.5	2 0.6

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

図表11 (訪問地別) 旅行形態割合

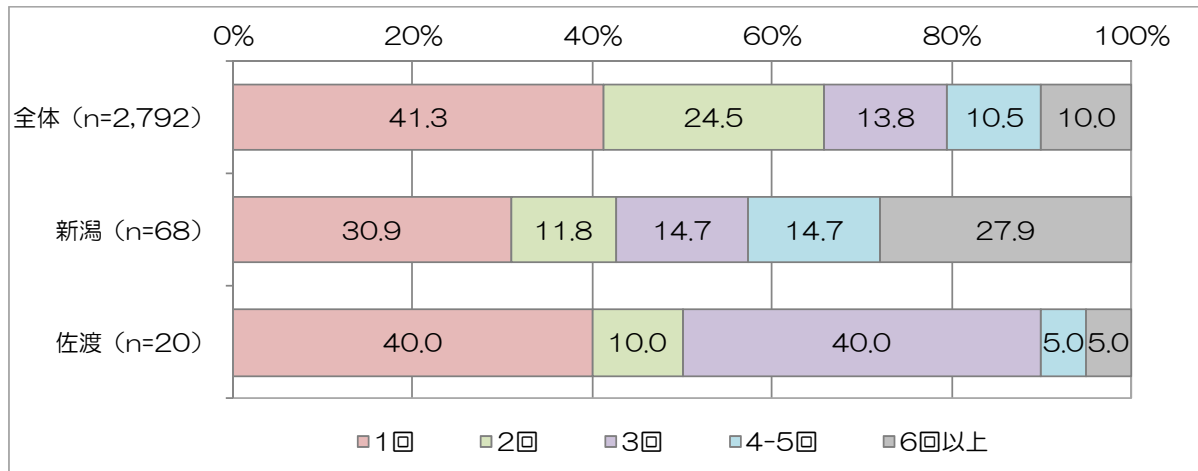


訪問動向①

-新潟、佐渡を訪れる外国人観光客の約7割は、訪日リピーター客-

- 新潟、佐渡を訪れる外国人観光客は、訪日リピーター客が多い傾向にある。
- 国別にみると、新潟訪問経験者では、台湾、香港から6回以上訪問している根強いリピーターが確認できるほか、佐渡訪問経験者では、東南アジアからのリピーターが多い。

図表12 (訪問地別) 訪日経験回数



図表13 国別訪日経験回数 (新潟、佐渡訪問経験者のみ)

(単位：n・%)

国	訪問地	n	1回	2回	3回	4-5回	6回以上
中国	新潟	17	8	3	4	1	1
	佐渡	4	3	0	1	0	0
台湾	新潟	9	0	0	1	2	6
	佐渡	1	0	0	1	0	0
香港	新潟	9	1	0	1	2	5
	佐渡	1	1	0	0	0	0
韓国	新潟	5	0	1	1	1	2
	佐渡	1	0	0	1	0	0
タイ	新潟	11	3	1	0	4	3
	佐渡	3	0	1	1	1	0
インドネシア	新潟	2	2	0	0	0	0
	佐渡	3	2	0	1	0	0
マレーシア	新潟	2	2	0	0	0	0
	佐渡	1	0	0	1	0	0
シンガポール	新潟	3	0	0	1	0	2
	佐渡	2	1	0	1	0	0
イギリス	新潟	4	1	1	2	0	0
	佐渡	3	0	1	1	0	1
アメリカ	新潟	4	2	2	0	0	0
	佐渡	1	1	0	0	0	0
フランス	新潟	2	2	0	0	0	0
	佐渡	0	0	0	0	0	0
オーストラリア	新潟	0	0	0	0	0	0
	佐渡	0	0	0	0	0	0

訪問動向②

-全体と比べ、家電量販店でのショッピングが多い-

- 新潟訪問経験者の訪問目的は、観光が最も多く、他地域に比べるとビジネス・国際会議も相応に多い。佐渡は観光目的がほとんどである。
- ショッピングをした場所としては、新潟、佐渡どちらもスーパーマーケット、ショッピングモール、ドラッグストア等の店舗が挙げられており、お土産用の日用品を購入していることが推測される。また、新潟においては、家電量販店の割合が全体に比べて2倍近くと高い。

図表14 (訪問地別) 訪問目的

(単位：n・%)

	n	観光	会 議 ・ ビ ジ ネ ス ・ 国 際	研 修 ・ イ ン セン	留 学	に 親 族 や 知 り 合 い	そ の 他
全体	2,792	2,469	162	69	20	60	12
	100.0	88.4	5.8	2.5	0.7	2.1	0.4
新潟	68	58	3	3	0	4	0
	100.0	85.3	4.4	4.4	0.0	5.9	0.0
佐渡	20	18	1	1	0	0	0
	100.0	90.0	5.0	5.0	0.0	0.0	0.0
東京	1,664	1,515	66	33	15	29	6
	100.0	91.0	4.0	2.0	0.9	1.7	0.4
北海道	723	690	10	9	6	5	3
	100.0	95.4	1.4	1.2	0.8	0.7	0.4
東北	68	56	5	2	0	5	0
	100.0	82.4	7.4	2.9	0.0	7.4	0.0
北陸	56	51	3	0	0	2	0
	100.0	91.1	5.4	0.0	0.0	3.6	0.0
京都	1,056	982	27	11	10	22	4
	100.0	93.0	2.6	1.0	0.9	2.1	0.4
大阪	1,126	1,043	33	15	10	22	3
	100.0	92.6	2.9	1.3	0.9	2.0	0.3
四国	86	82	1	1	0	1	1
	100.0	95.3	1.2	1.2	0.0	1.2	1.2
九州	316	300	6	6	2	2	0
	100.0	94.9	1.9	1.9	0.6	0.6	0.0
沖縄	312	294	8	1	1	7	1
	100.0	94.2	2.6	0.3	0.3	2.2	0.3

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

図表15 (訪問地別) ショッピングをした場所

(単位：n・%)

	n	百貨店	シ ョ ッ ピ ン グ モ ー ル	ス ー パ ー マ ー ケ ッ ト	コ ン ビ ニ エ ン ス ス ト ア	家 電 量 販 店	専 門 店 等 (服 飾 専 門 店 、 宝 石	ア 大 型 の デ ィ ス カ ウ ン ト ス ト	1 0 0 円 シ ョ ッ プ	ド ラ ッグ ス ト ア	観 光 地 の 土 産 物 屋	ホ テ ル ・ 旅 館 等 の 宿 泊 施 設	空 港	そ の 他
全体	2,792	48.9	61.3	51.8	51.3	23.1	27.8	34.1	36.9	39.9	46.9	20.2	44.8	0.4
新潟	68	52.9	58.8	67.6	54.4	41.2	44.1	39.7	48.5	57.4	55.9	30.9	48.5	0.0
佐渡	20	45.0	50.0	50.0	35.0	35.0	30.0	45.0	50.0	25.0	55.0	20.0	25.0	0.0
東京	1,664	55.9	68.3	57.9	57.6	26.0	30.1	37.1	41.2	43.1	52.2	20.7	49.6	0.4
北海道	723	56.6	69.6	62.4	58.0	27.1	29.7	43.2	43.4	50.9	55.3	25.3	55.5	0.3
東北	68	60.3	66.2	67.6	66.2	45.6	29.4	47.1	52.9	57.4	61.8	35.3	69.1	0.0
北陸	56	60.7	71.4	62.5	58.9	48.2	42.9	44.6	53.6	64.3	50.0	32.1	58.9	0.0
京都	1,056	58.2	67.8	63.0	60.5	27.6	32.0	40.4	46.8	50.7	55.6	22.6	52.9	0.4
大阪	1,126	57.9	69.6	62.7	62.4	27.5	30.4	39.9	48.0	51.4	54.1	21.0	53.8	0.4
四国	86	59.3	73.3	72.1	55.8	34.9	40.7	45.3	39.5	53.5	64.0	41.9	51.2	0.0
九州	316	59.2	74.1	64.9	62.7	30.1	32.9	42.4	50.9	57.6	57.0	31.0	59.8	0.0
沖縄	312	53.5	73.7	62.2	66.7	30.1	31.1	46.8	46.2	59.0	60.9	30.8	62.2	0.3

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

認知度・イメージ①

-国別では中国、台湾、香港において新潟、佐渡の認知度が高い傾向-

- 観光地としての認知度は、新潟、佐渡のどちらも国内の主要な観光地に比べて低い。地域別にみると、欧米豪全体に比べて、アジア全体のほうが新潟、佐渡の認知度は高い。
- 国別にみると、新潟、佐渡の認知度は、中国、台湾、香港において高い傾向がある。

図表16 国内観光地の認知度（アジア・欧米豪別）

（単位：％）

	n	新潟	佐渡	東京	富士山	北海道	青森
全体	6,274	11.4	3.9	65.4	62.4	47.5	14.2
アジア全体	4,149	15.1	4.7	69.6	67.5	62.9	19.8
欧米豪全体	2,125	4.3	2.3	57.3	52.5	17.5	3.5

	n	箱根	金沢	飛騨／高山	京都	長崎	沖縄
全体	6,274	17.1	9.6	7.8	52.7	35.4	42.5
アジア全体	4,149	23.6	12.1	10.5	59.7	37.5	50.7
欧米豪全体	2,125	4.3	4.8	2.4	39.1	31.3	26.4

*回答はあてはまるものすべて

図表17 （国別）新潟、佐渡の認知度

（単位：％）

	n	新潟	佐渡		n	新潟	佐渡
中国	533	17.3	10.1	マレーシア	519	5.6	1.9
台湾	504	35.3	6.0	シンガポール	514	11.5	1.9
香港	519	31.4	5.8	イギリス	539	3.9	2.6
韓国	521	6.1	3.5	アメリカ	526	4.9	2.9
タイ	515	9.5	6.0	フランス	534	3.0	1.3
インドネシア	524	4.8	2.5	オーストラリア	526	5.3	2.5

認知度・イメージ②

- 新潟、佐渡訪問経験者が持つ日本（全体）に対するイメージは、桜、温泉、日本庭園、城などが挙げられる。

図表18 日本の観光地のイメージ（全体と訪問経験者比較）

（単位：％）

	全体 (n=6,274)	新潟 (n=68)	佐渡 (n=20)
桜	61.2	72.1	65.0
富士山	59.6	70.6	65.0
温泉	57.8	69.1	60.0
日本的な街並み	56.5	67.6	50.0
日本庭園	49.5	69.1	75.0
日本旅館	48.7	64.7	60.0
城	46.8	69.1	70.0
新幹線	45.7	60.3	65.0
雪景色	43.1	54.4	55.0
神社仏閣	43.1	57.4	55.0
ショッピングモール	41.3	63.2	70.0
紅葉	40.3	51.5	45.0
島々の風景	37.1	54.4	45.0
祭り	36.6	54.4	45.0
テーマパーク	36.4	47.1	70.0
田園風景	35.6	64.7	50.0
海	34.1	45.6	45.0
山岳	32.1	54.4	55.0
居酒屋	29.7	55.9	35.0
都市景観（高層ビル街）	28.6	50.0	50.0
ダム（巨大インフラ）	11.3	29.4	35.0
工場/コンビナート	6.9	22.1	40.0
この中には行ってみたいところはない	2.5	0.0	0.0

*回答はあてはまるものすべて

訪日旅行に求めること

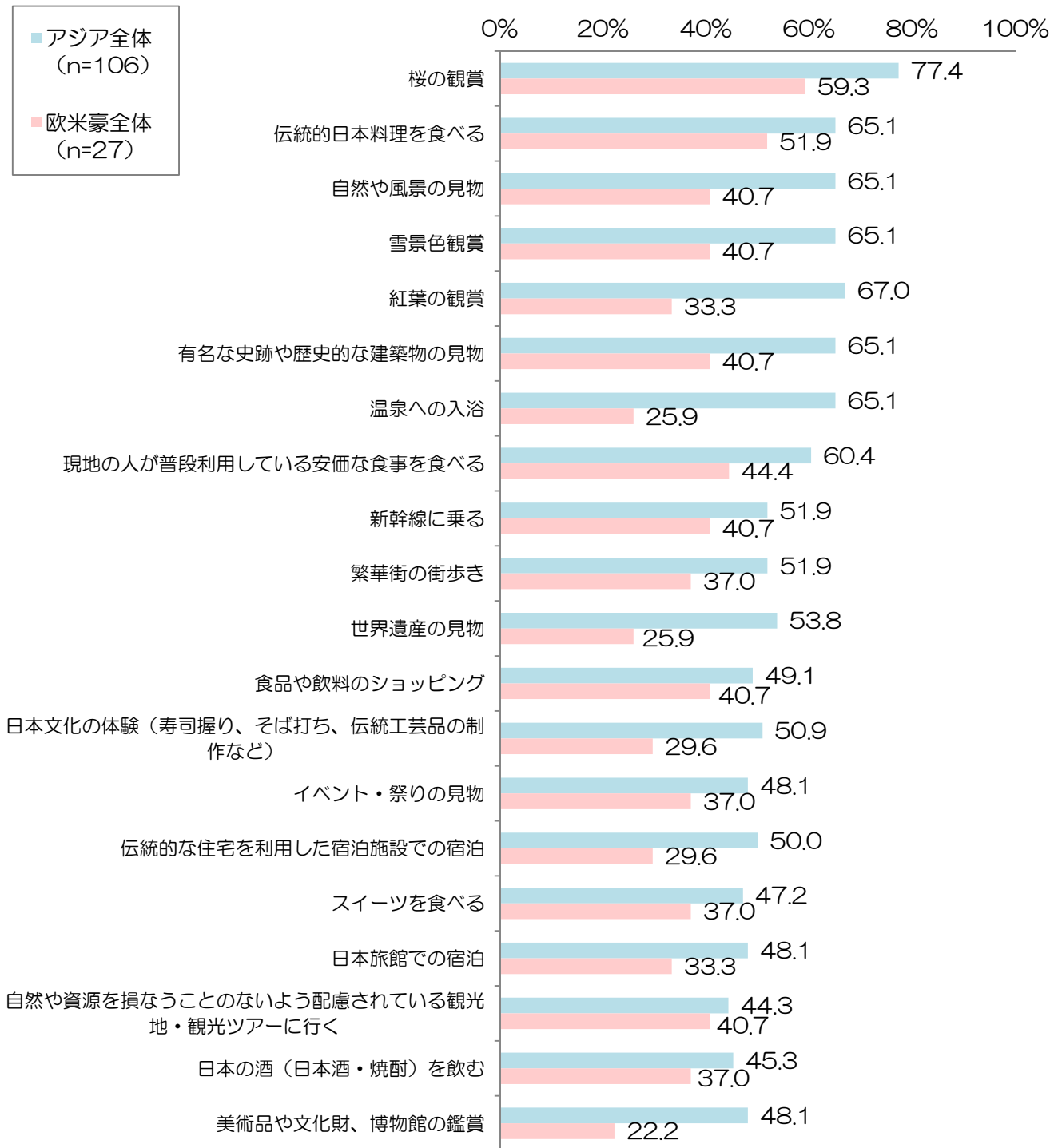
-アジアは自然、欧米豪は食体験への関心が強い傾向-

- 引き続き東京、大阪、京都などのゴールデンルートへの訪問希望者数は多い一方で、訪日経験者数が増える中で東北、北陸、四国などへの訪問意向が増加傾向にある。新潟、佐渡への訪問意向者数は他の主要な観光地に比べて少ないものの、前年度対比では僅かながら増加している。
- 新潟訪問希望者が日本で体験してみたいことをみると、桜、紅葉、雪景色などの自然資源や、史跡・歴史的建造物の鑑賞のほか、食体験などへの関心が強いことがうかがえ、回答者全体にも同様の傾向が見られる（詳細は参考3参照）。

図表19 地域別訪問希望者

	2016年度	2017年度	伸び率%
全体	5,590	5,696	-
新潟	139	158	13.7%
佐渡	54	66	22.2%
東京	2,917	2,708	-7.2%
北海道	2,289	2,314	1.1%
東北	800	872	9.0%
北陸	473	559	18.2%
名古屋	891	887	-0.4%
大阪	1,982	1,870	-5.7%
京都	1,842	1,835	-0.4%
四国	538	644	19.7%
九州	627	657	4.8%
沖縄	1,291	1,251	-3.1%

図表20 日本で体験してみたいこと（新潟訪問希望者）



*回答はあてはまるものすべて

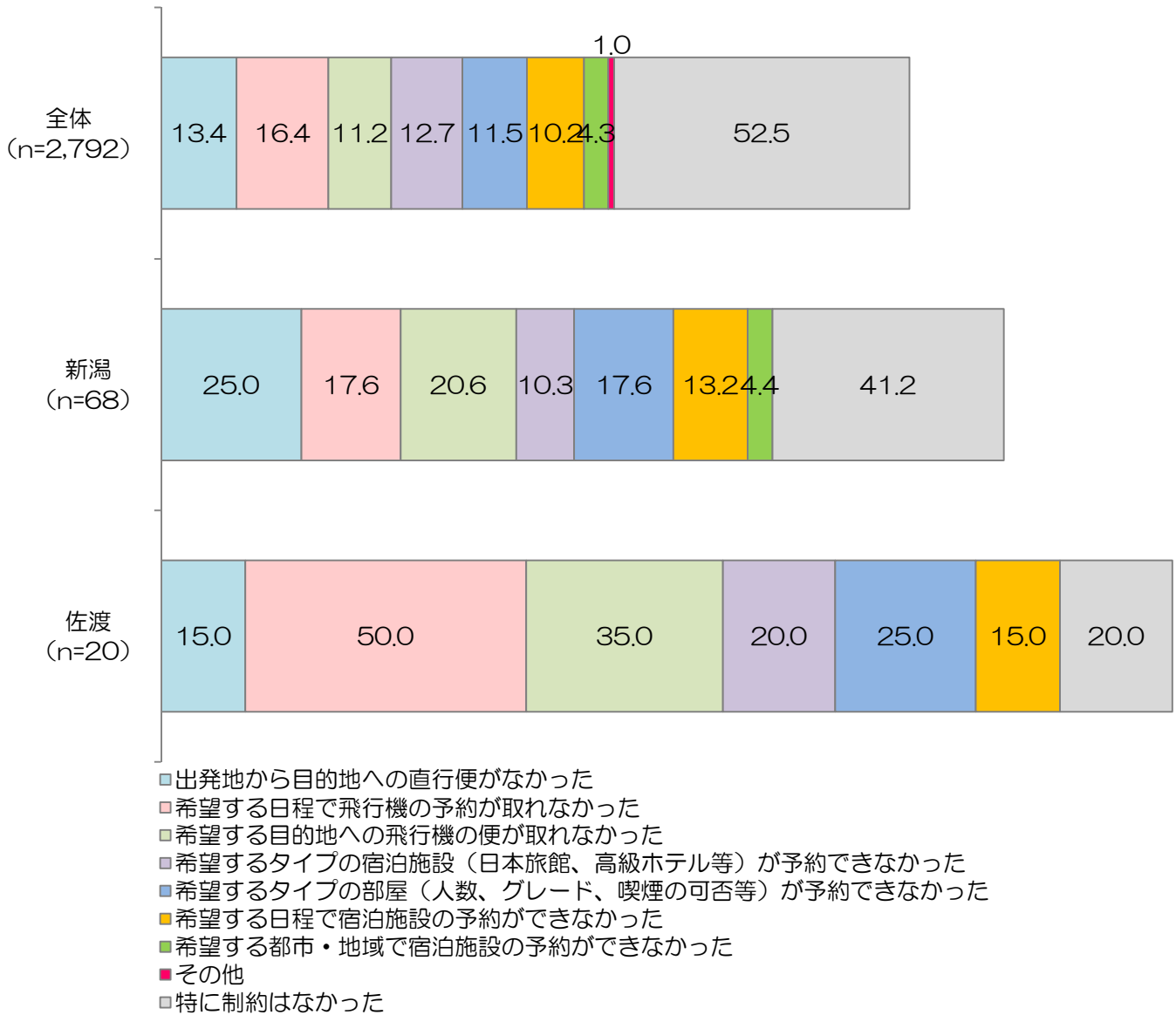
*上位20位を抽出

訪日旅行の不安等①

-飛行機のアクセスや宿泊施設の予約に訪問制約を感じている傾向-

- 新潟訪問経験者では、訪日旅行に対して出発地からの飛行機のアクセスに訪問制約を感じている割合が高い。
- 佐渡訪問経験者では、日程や宿泊施設の予約に制約を感じている傾向がある。特に佐渡では交通手段が限られるためか、交通面での制約を感じている傾向が強い。

図表2.1 訪日旅行の制約条件（訪問経験者、複数回答）



訪日旅行の不安等②

-言語対応や病院など、インフラ面の不安が目立つ-

- これから訪日を希望する人が不安に思っていることをみると、全体では「言葉が通じるか不安」の割合が最も高く、次いで「滞在費（現地での費用）が高い」「渡航費用が高い」が続く。
- 新潟訪問希望者では、「言葉が通じるかどうか不安」の割合が最も高く、次いで「放射能による健康被害が心配」「地震が起こるかどうか心配」「滞在費（現地での費用が高い）」が続く。
- 佐渡訪問希望者では、「言葉が通じるかどうか不安」「地震が起こるかどうか心配」の割合が最も高く、次いで「病気や怪我にあった時が心配」が続く。また、「申込み手続きが面倒」「外貨両替を利用できる場所が少ない」「治安が心配」は全体に比べて10ポイント近く高い。

図表22 新潟訪問希望者の訪日旅行の不安材料

(単位：%)

	全体 (n=6,274)	新潟 (n=158)	佐渡 (n=66)
治安が心配	9.8	11.4	19.7
言葉が通じるかどうか不安	40.9	36.1	30.3
渡航費用が高い	32.3	26.6	22.7
滞在費（現地での費用）が高い	34.1	30.4	24.2
食べ物が合わない	10.4	5.1	7.6
病気や怪我にあった時が心配	15.9	20.3	28.8
習慣が合わない	7.7	5.7	19.7
申込み手続きが面倒	9.4	13.3	21.2
日本に行くまでの時間がかかりすぎる	8.6	7.6	15.2
出発日・コース・価格などで条件に合うツアーがない	9.8	12.7	13.6
地震が起こるかどうか心配	30.4	31.0	30.3
放射能による健康被害が心配	27.9	31.6	19.7
2011年におきた東日本における地震による被害の復旧の状況が分からない	10.3	12.7	10.6
2016年におきた九州地方における地震による被害の復旧の状況が分からない	10.9	11.4	13.6
放射能の安全性に関する情報が分からない	20.8	18.4	18.2
外貨両替を利用できる場所が少ない	7.5	12.7	16.7
自国金融機関のキャッシュカードを利用できる場所が少ない	7.3	13.3	13.6
クレジットカードを利用できる場所が少ない	6.6	12.7	13.6
携帯電話や通信機器が利用しづらい（Wi-Fi等が利用しづらい）	13.5	19.6	18.2
信仰する宗教に対する理解と配慮が乏しい	6.8	11.4	15.2
公共交通機関の利用方法やネットワークが分からない	18.5	22.2	21.2
その他	3.0	1.9	3.0

* 回答はあてはまるものすべて

* ■はそれぞれの地域の上位3位

参 考

参考1：新潟県外国人延べ宿泊者数

(単位：人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2013	5,656	4,671	3,346	5,601	4,211	3,356
2014	5,111	4,163	6,698	6,885	5,440	6,326
2015	9,223	7,609	6,548	9,920	8,988	8,382
2016	10,046	8,315	6,690	12,231	6,576	5,782

年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2013	7,025	4,610	8,840	20,482	18,108	7,851	93,757
2014	7,744	6,197	16,180	30,272	30,606	11,584	137,206
2015	9,815	6,951	20,360	46,369	39,141	15,318	188,624
2016	9,897	8,400	20,172	44,656	43,824	16,491	193,080

(出所)新潟県産業労働観光部産業振興課資料

参考2：客室稼働率（平成29年1月～12月）

（左、単位：％、右：宿泊施設タイプ別の都道府県順位）

	全体		前年差	旅館		リゾート ホテル		ビジネス ホテル		シティ ホテル		簡易宿所	
	値	順位		値	順位	値	順位	値	順位	値	順位	値	順位
全国	60.8	—	+1.1	38.1	—	57.8	—	75.4	—	79.4	—	27.6	—
北海道	63.8	11	+2.1	49.6	4	52.5	23	74.4	14	78.3	11	34.5	8
青森県	57.5	18	+4.3	38.3	24	44.9	36	70.7	29	63.1	43	21.1	22
岩手県	52.0	31	-0.3	37.9	27	44.3	37	70.5	30	66.2	35	31.4	12
宮城県	57.9	15	-2.8	39.3	21	45.1	34	71.3	26	68.8	29	38.6	5
秋田県	47.8	40	+0.9	35.5	32	37.7	42	66.1	42	70.5	26	11.9	42
山形県	49.2	37	+0.9	37.8	28	29.5	45	67.6	38	65.7	38	8.9	47
福島県	47.1	42	-2.2	35.7	30	47.5	31	69.1	35	67.0	34	13.6	37
茨城県	54.0	29	+1.4	26.8	44	49.7	29	66.2	41	69.7	28	10.9	44
栃木県	54.6	28	+3.5	40.7	18	54.2	22	75.3	13	66.1	36	16.8	28
群馬県	51.3	34	+0.3	44.6	10	45.1	34	73.0	21	62.9	44	14.9	35
埼玉県	65.7	10	±0.0	38.3	24	33.1	44	74.4	14	78.2	12	22.3	18
千葉県	68.2	5	+1.2	30.7	39	83.5	2	74.0	16	80.4	7	21.2	21
東京都	80.1	2	+1.3	57.2	2	72.6	5	84.8	2	82.9	5	50.6	3
神奈川県	66.4	7	-1.4	42.3	16	70.4	6	77.5	7	83.2	4	43.2	4
新潟県	43.1	44	+2.1	26.1	46	29.4	46	67.2	39	64.3	40	26.9	15
富山県	51.9	32	+1.0	32.4	38	49.9	28	66.0	43	68.1	32	13.4	38
石川県	63.7	12	±0.0	51.2	3	55.6	20	73.2	20	79.5	9	22.7	17
福井県	41.1	46	+0.7	27.5	43	35.0	43	74.0	16	58.7	46	9.2	46
山梨県	42.2	45	-2.4	37.7	29	52.0	25	72.7	22	64.5	39	16.3	30
長野県	37.6	47	+2.5	26.8	44	39.8	41	71.4	25	75.5	16	12.7	39
岐阜県	50.0	36	+0.1	39.8	19	56.1	17	69.8	33	71.6	23	15.5	33
静岡県	54.9	26	+0.3	45.4	8	56.5	15	72.0	23	74.3	19	15.9	32
愛知県	71.5	4	+1.3	30.7	39	55.7	19	79.0	4	79.5	9	53.2	2
三重県	51.1	35	-2.9	35.6	31	51.7	27	64.5	45	74.2	20	12.6	40
滋賀県	55.2	24	-2.4	44.7	9	59.3	12	66.6	40	73.6	22	19.0	25
京都府	67.7	6	+0.4	43.4	12	52.5	23	84.0	3	81.2	6	37.6	6
大阪府	83.1	1	-0.2	58.1	1	90.6	1	85.1	1	89.3	1	59.4	1
兵庫県	57.5	18	±0.0	40.8	17	57.5	14	75.7	11	76.7	14	12.5	41
奈良県	49.0	38	+3.1	33.5	34	60.2	11	65.4	44	71.0	25	21.8	20
和歌山県	45.3	43	-1.6	33.0	37	56.4	16	68.9	36	70.1	27	22.0	19
鳥取県	51.5	33	+0.5	35.3	33	55.3	21	70.9	27	75.3	17	20.0	23
島根県	57.5	18	+0.5	45.7	7	41.1	40	73.3	19	73.7	21	16.3	30
岡山県	57.8	16	+0.2	30.3	42	22.3	47	77.2	8	68.7	30	29.0	14
広島県	65.9	9	+0.3	39.6	20	45.4	33	76.7	9	84.8	2	36.1	7
山口県	55.7	23	-2.0	43.3	13	46.3	32	63.5	47	63.4	42	31.9	10
徳島県	48.9	39	-1.3	25.4	47	55.8	18	69.6	34	60.4	45	16.8	28
香川県	57.8	16	-1.3	43.0	15	62.8	8	71.6	24	64.1	41	30.1	13
愛媛県	55.1	25	+3.1	38.8	22	75.5	3	69.9	32	74.9	18	15.1	34
高知県	47.2	41	-0.2	33.2	36	48.9	30	68.5	37	76.0	15	11.1	43
福岡県	72.7	3	+1.9	30.6	41	61.2	10	78.8	5	83.8	3	34.0	9
佐賀県	62.0	13	+5.7	47.5	6	61.5	9	75.6	12	68.0	33	16.9	27
長崎県	57.5	18	+5.2	38.1	26	58.7	13	73.4	18	71.1	24	18.0	26
熊本県	61.7	14	+3.7	44.4	11	52.0	25	76.3	10	77.9	13	26.6	16
大分県	56.2	22	+3.6	48.6	5	65.7	7	70.9	27	66.0	37	10.1	45
宮崎県	53.0	30	+1.2	38.4	23	42.6	39	64.0	46	54.9	47	13.7	36
鹿児島県	54.9	26	+5.0	43.2	14	43.9	38	70.2	31	68.3	31	19.8	24
沖縄県	66.1	8	+1.1	33.5	34	75.2	4	78.1	6	80.0	8	31.9	10

※宿泊施設タイプ別に見たとき、客室稼働率が最も高かった都道府県を朱書きにしている。

また、客室稼働率が80%を超えている都道府県は青色、90%を超えている都道府県は黄色で示している。

※「全体」の前年差は、前年の客室稼働率(確定値)との差分を示している(前年比ではない)。

(出所)国土交通省「宿泊旅行統計調査」(速報値)

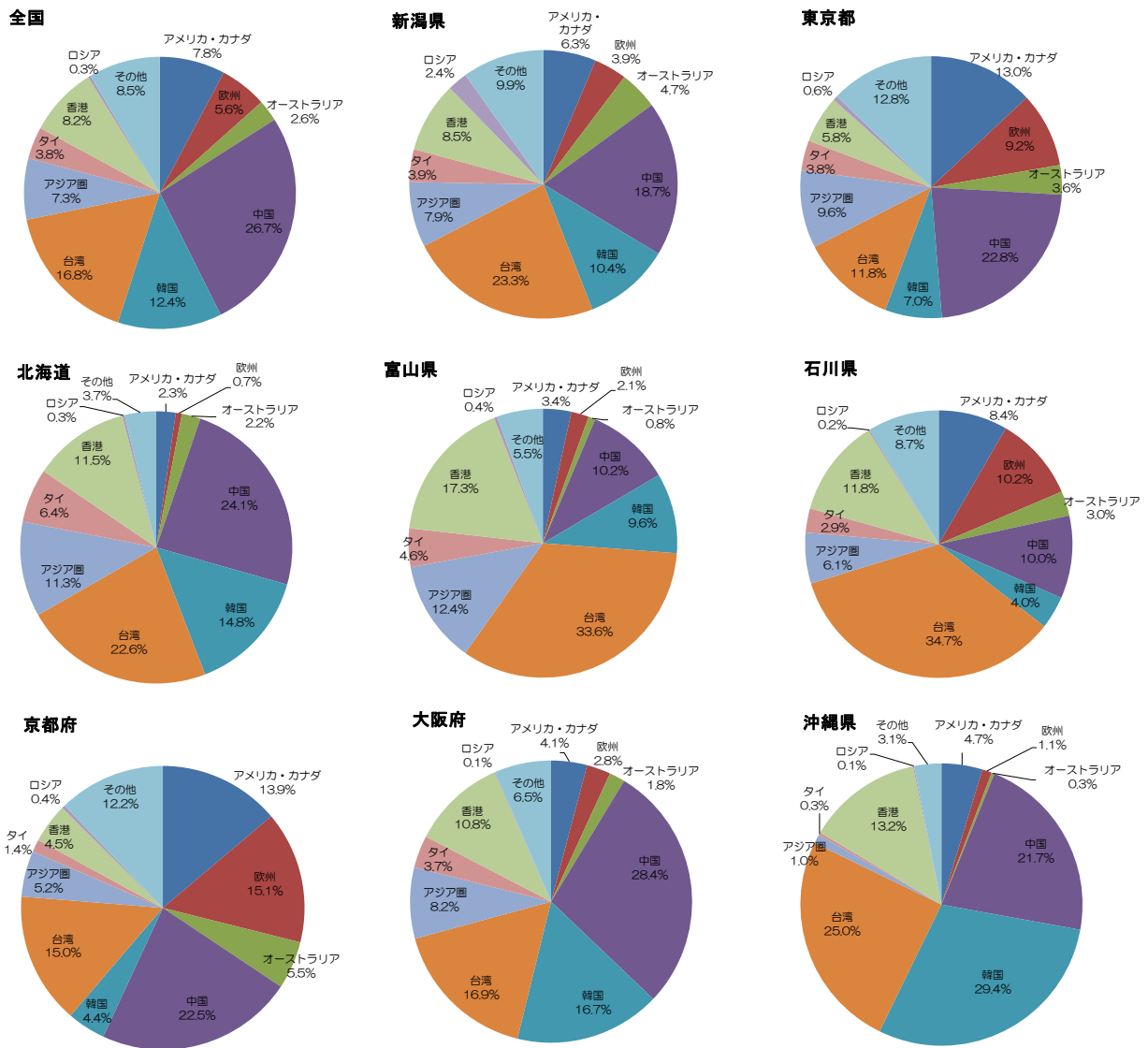
参考3：新潟訪問希望者が 日本で体験してみたいこと（すべての項目）

	全国		新潟	
	n	%	n	%
全体	3,214	100.0	133	100.0
桜の観賞	1,910	59.4	98	73.7
伝統的・日本料理を食べる	2,089	65.0	83	62.4
自然や風景の見物	1,740	54.1	80	60.2
雪景色観賞	1,578	49.1	80	60.2
紅葉の観賞	1,462	45.5	80	60.2
有名な史跡や歴史的な建築物の見物	1,550	48.2	80	60.2
温泉への入浴	1,578	49.1	76	57.1
現地の人が普段利用している安価な食事を食べる	1,738	54.1	76	57.1
新幹線に乗る	1,330	41.4	66	49.6
繁華街の街歩き	1,220	38.0	65	48.9
世界遺産の見物	1,333	41.5	64	48.1
食品や飲料のショッピング	1,204	37.5	63	47.4
日本文化の体験(寿司握り、そば打ち、伝統工芸品の制作など)	1,210	37.6	62	46.6
イベント・祭りの見物	1,063	33.1	61	45.9
伝統的な住宅を利用した宿泊施設での宿泊	1,006	31.3	61	45.9
スイーツを食べる	1,193	37.1	60	45.1
日本旅館での宿泊	1,396	43.4	60	45.1
自然や資源を損なうことのないよう配慮されている観光地・観光ツアーに行く	1,093	34.0	58	43.6
日本の酒(日本酒・焼酎)を飲む	1,136	35.3	58	43.6
美術品や文化財、博物館の鑑賞	825	25.7	57	42.9
化粧品や医薬品の購入	883	27.5	56	42.1
鉄道に乗る	948	29.5	55	41.4
農作物や果実の採取(リンゴ・いちご狩り等)	775	24.1	55	41.4
遊園地やテーマパークに行く	1,045	32.5	54	40.6
伝統工芸品の購入	958	29.8	51	38.3
最先端の工場や伝統工芸品・加工食品工場見学・体験	579	18.0	50	37.6
近代的／先進的な建築物の見物	819	25.5	48	36.1
豪華で快適な高級ホテルでの宿泊	736	22.9	48	36.1
ナイトライフ(バーやクラブ、芸者遊び等)体験	704	21.9	46	34.6
洋服やファッション雑貨のショッピング	964	30.0	44	33.1
最新のファッションや流行の見物	657	20.4	43	32.3
演劇や伝統芸能鑑賞	540	16.8	43	32.3
家電製品やAV製品のショッピング	546	17.0	40	30.1
アニメやポップカルチャーに関するグッズの購入	651	20.3	39	29.3
日本の人々と交流	651	20.3	39	29.3
ドラマや映画のロケ地・アニメの舞台の見物	487	15.2	38	28.6
クルーズ船の利用	368	11.4	37	27.8
安価で基本的な設備のみが備わっている施設での宿泊	750	23.3	34	25.6
ブランド品や宝飾品のショッピング	491	15.3	32	24.1
登山やハイキング	353	11.0	31	23.3
サムライ・忍者体験	610	19.0	31	23.3
語学や専門知識の吸収	516	16.1	28	21.1
伝統的なスポーツ(相撲、剣道、柔道等)の観戦	459	14.3	27	20.3
現地の人から借りる家・アパートでの宿泊	575	17.9	27	20.3
サイクリング	359	11.2	25	18.8
美容・理容体験(美容院、ネイル、メイク等)	281	8.7	24	18.0
ウィンタースポーツ	282	8.8	23	17.3
国内のプロスポーツ観戦	212	6.6	20	15.0
ギャンブルやショー体験	191	5.9	20	15.0
マリンスポーツ	208	6.5	19	14.3
国際スポーツ大会の観戦	223	6.9	18	13.5
ボランティア体験	183	5.7	13	9.8
テニスやゴルフ等のスポーツ	118	3.7	12	9.0
スポーツ大会(マラソン等)への参加	127	4.0	12	9.0
治療や健診を受ける	117	3.6	12	9.0
その他	6	0.2	0	0.0

参考4：外国人観光客の宿泊傾向 外国人延べ宿泊者数の国別構成比の比較 -エリア別で比較的分散の効いた構成-

- 観光庁の「宿泊旅行統計調査」によると、新潟県の外国人延べ宿泊者数は、中国、韓国、台湾の3国を合わせて5割を超えている。
- 一方で、他県に比べるとエリア別の分散が効いており、全国の構成に比較的近い。

参考4 2016年都道府県別外国人延べ宿泊者数比較



(出所)観光庁「宿泊旅行統計調査」

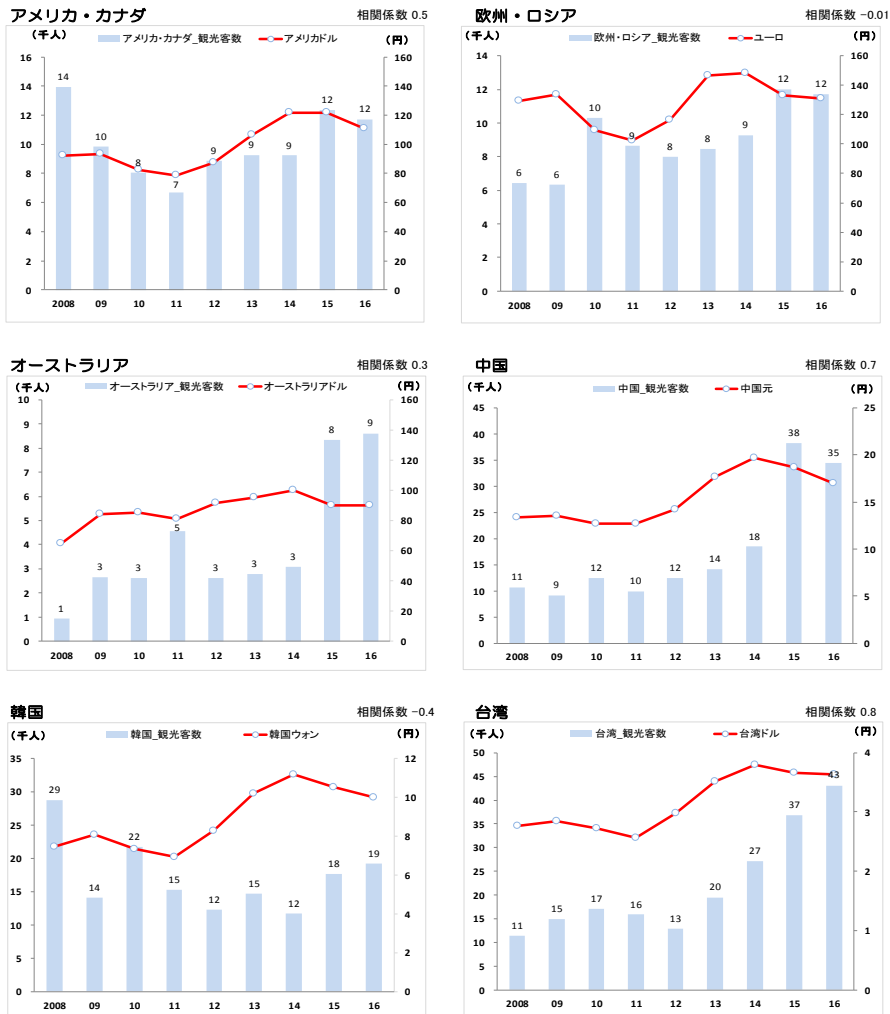
参考5：外国人観光客の宿泊傾向

外国人延べ宿泊者数の国別構成比の比較

-オーストラリア、欧州・ロシアは円高傾向時も観光客数増-

● 為替レートと新潟県に宿泊した延べ外国人数の関連性をみてみると、中国、台湾では、円安傾向が進むにつれ、延べ宿泊者数が伸びている。2014年から2016年にかけてはやや円高傾向であったが、延べ宿泊者数は大きく伸びた。一方、韓国では、円安傾向にあった時期でも、延べ宿泊者数の伸びには繋がっていない。オーストラリアおよび欧州・ロシアは若干の円高傾向にあるが、観光客数は増加傾向にある。

参考5 為替レートと外国人宿泊客数（新潟県）の推移



* 為替レートは、1通貨単位あたりの相場(韓国ウォンのみ100単位)
 * 為替レートは、各年12月30日時点
 * 欧州・ロシアには「イギリス、ドイツ、フランス、ロシア、イタリア、スペイン」が含まれる。ただし、ロシアは2010年から、イタリア、スペインは2015年から含まれる。
 (出所)観光庁「宿泊旅行統計調査」より当行作成



日本政策投資銀行
Development Bank of Japan

©Development Bank of Japan Inc.2018

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願い致します。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要です。当行までご連絡下さい。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず、『出所：日本政策投資銀行』と明記して下さい。

(お問い合わせ先)

□株式会社日本政策投資銀行 新潟支店 企画調査課
〒951-8066 新潟市中央区東堀前通6-1058-1 中央ビルディング7階
TEL : 025-229-0711 FAX : 025-224-5986